



Facebook



LINE

藤村まさたか NEWS

藤村まさたかの2024年春の府議会レポート

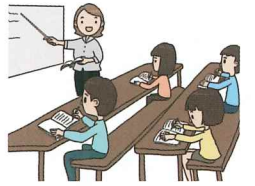


「教育版DMAT」の創設、「育英会奨学金」拡充を～教育常任委員会で提案



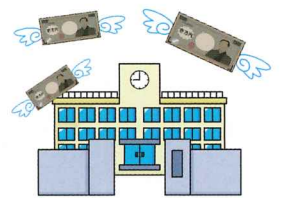
「災害時教育支援チーム（教育版DMAT）」を設置すべき

- ・能登半島地震では、中学生が集団避難を余儀なくされるなど、児童・生徒の学びの保障が大きな課題となりました。兵庫県や宮城県では、県内外の災害発生時に、被災地に専門性を備えた教職員を派遣し、教育活動を支援する「災害時教育支援チーム」が設置されており、大阪府でも創設すべきと提案しました。
- ・教育長は「被災地に教職員を派遣し、経験を積んでいくことは大変有意義であり、体制づくりを検討していく」と答弁しました。



府育英会奨学金制度を令和7年度より拡充

- ・高校授業料無償化制度により、授業料は完全無償化となる一方、入学金や制服代などは対象外となっており、物価高騰によるさらなる費用増加も懸念されることから、府育英会奨学金制度の拡充を提案しました。
- ・府は「入学時増額奨学資金」の貸付対象や貸付額の引き上げを令和7年度から実施する方針を示しました。

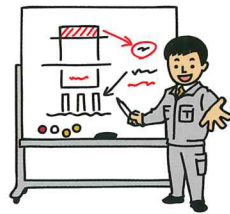


その他、不登校支援やSDGsの取り組み、LINE相談の拡充等、教育常任委員会で質疑しました。

万博費用の厳格なチェック体制の構築を～万博特別委員会で徹底審議

海外パビリオン建設の進捗や費用の透明化

- ・タイプAパビリオン50数か国中、施工業者が決定したのが36か国（3月7日時点）と会場建設の遅れが一層懸念されており、会場建設の工程と費用両面にわたって、透明性を確保すべきと訴えました。



府・市の万博費用は総額1,325.4億円+α

- ・府民への説明責任を果たすため、万博費用を適切に執行管理するためのチェック体制を確立すべきと府に求めました。府は執行管理を厳格にし、府議会へ適宜報告することを明言しました。



トピックス「小児救急電話相談（#8000）」など藤村の実績がさらに拡充

「小児救急電話相談（#8000）」の体制を拡充

- ・令和5年の#8000の相談件数は約7万3千件と過去最多となったことから、特に相談が多い19時～23時の相談員を拡充します。



「安まちアプリ」の登録者数が24万人を突破

- ・府の令和5年特殊詐欺発生件数は過去最多の2,649件に。平野区でも50件と被害状況は深刻です。地域の犯罪状況をリアルタイムで確認できるスマホアプリ「安まちアプリ」をぜひご登録ください。



「安まちアプリ」の登録者数が
24万人 越えました。
皆さん、ありがとうございます。

下記からQRコードからダウンロードをお願いします！

Androidはこちら
Google Play
で手に入れよう

iPhoneはこちら
App Store
からダウンロード